

# 第17回 知楽会

2024/2/3 修正



2024年2月6日（火）

## トランプ前大統領に対する 4つの刑事訴追と民事訴訟

= 法律家が見た大統領選への影響 =  
1417番 秋山武夫

1

## はじめに

1. 自己紹介
2. 大統領選までのスケジュールとメインイベント
3. 米国刑事訴訟手続き要約
4. トランプ大統領が抱える4つの刑事訴訟
5. トランプ大統領が抱える代表的な民事訴訟
6. どうなる大統領選
7. Q&A

2

## 自己紹介

- ▶ ・ 1969 一橋大学法学部卒業、丸紅株式会社入社
- ▶ ・ 1973～1975 ワシントン大学ロースクール
- ▶ ・ 1981～1987 丸紅米国会社法務部長
- ▶ ・ 1985 米国弁護士登録
- ▶ ・ 1987～2019 PRIVATE PRACTICE  
( PILLSBURY, WINTHROP, SHAW, PITTMAN, PARTNER)

3

## 2024年 大統領選 立候補者

### 共和党



4

## 1.大統領選までのスケジュールとメインイベント

### (i) 各党の大統領候補の選任手続き

**党员投票** (Primary) (党员による投票)

**党员集会** (Caucus) (議論を経ての候補者の選定)

- ・ 1月15日 共和党 Iowa Caucus
- ・ 1月23日 民主党、共和党 New Hampshire
- ・ (各州での選任手続き)
- ・ 2月24日 共和党 South Carolina Primary
- ・ 3月5日 Super Tuesday (CA, TX, 15州)
- ・ 7月15日～18日 共和党候補者選定
- ・ 8月19日～22日 民主党候補者選定

5

### (ii) 大統領の選任手続き

- ・ 9月16日 第一回Presidential Debate
- ・ 9月25日 Vice Presidential Debate
- ・ 10月1日 第二回Presidential Debate
- ・ 10月9日 第三回Presidential Debate
- ・ **11月5日 大統領選挙** **選挙人総数 538名**  
**過半数 270名**

### (iii) 新大統領の執務開始

- ・ 2025年 1月20日 新大統領の執務開始

6

## 2. アメリカにおける刑事手続き

### (地裁)

- \* 大陪審による起訴と逮捕（23人の陪審員のうち12人が*Probable Cause*（相当の理由）ありと認定）
- \* 罪状認否（司法取引？）
- \* 各種手続き（*Motions*）（*Discovery*）
- \* 公判（*Trial*）
- \* 小陪審による評決 有罪、無罪、*Hung Jury*（陪審員の選定？）
- \* 裁判官による量刑
- \* 有罪の場合の収監
  - （控訴審）（手続等の法令違反の有無）
  - （最高裁）上告(*Certiorari*)



7

## 3. トランプ前大統領が抱える4つの刑事訴訟

### 連邦

1. DC 連邦地裁 2021年1月6日暴動関連  
選挙結果を覆すための偽りの情報の拡散と  
共謀、合衆国、投票人に対する詐欺

\*

2. フロリダ南部地区連邦地裁  
機密文書の保持と司法妨害

8

## 州

**3. ジョージア州フルトンカウンティー裁判所**  
 選挙結果を覆すための偽りの情報の拡散と共謀、  
 合衆国、投票人に対する詐欺

\*

**4. ニューヨーク州マンハッタン裁判所**  
 2016年の大統領戦に関しポルノ女優 Stormy  
 Daniels に対する口止め料 \$ 13万ドルの支払い  
 に関わるビジネス情報の不実表示

9

## 4. トランプ前大統領が抱える代表的な民事訴訟

1) 2022年に提起されたニューヨーク州司法長官 (AG) Ms.  
 Letitia James (D) による Parens Patriae 訴訟 (資産インフ  
 レに関わる詐欺) 被告はトランプ、彼の子供、トランプオーガナイ  
 ザーション \$ 250Mil. → \$ 330Mil

トランプ及びその関係者、法人のNY州における不動産取引の禁  
 止

2) E. Jean Carroll 対トランプ

トランプが1990年代半ば百貨店で彼女をレープしたとする事件と  
 トランプの発言による名誉毀損関連 \$ 5Mil. Plus 83.3Mil.  
 (内 \$ 60Mil. は懲罰的損害賠償)

10

## 5.どうなる大統領選

大胆な仮説として

> トランプ元大統領は共和党の指名を受ける？

> トランプ元大統領は大統領になる？

11

## 5.どうなる大統領選

その2

### 有罪の可能性

・4つの刑事事件の少なくとも一つにつき11月5日までに有罪の決定が出される可能性は高い。このような政治色の強い陪審裁判で12人全員一致の評決が出る可能性はある。問題はいつ評決が出されるか？

・有罪となっても控訴、上訴する、いつ刑が確定するか？

12

## 5. どうなる大統領選

### 有罪となっても大統領に立候補できるか

- ・理屈の上ではできる。刑務所からでも選挙運動は可能である。過去にケースはあった。
- ・現在コロラド州（Maine州も同様）では合衆国憲法修正14条3項の反乱罪を理由に彼が被選挙人の資格がないとの決定を下しているが、現在最高裁で審議中。多分はく奪はされないであろう。

### 民事事件はどうか

- ・これも複数のケースで敗訴し、莫大な経済的負担を強いられることになるだろう。大統領になってもこの債務は永久に残るBill.とも云われている。ジュリアと同一運命をたどる？ 民事については損害賠償の恩赦はない。

13

## 6. どうなる大統領選 その3

- ▶ トランプの戦略は、裁判より大統領になることに集中
- ▶ 次回の大統領選出馬はあり得ない。
- ▶ さいばんについてはいかに手続きを遅らせるかである。
- ▶ 大統領になったら何でもできると考えている。

14

## 6.どうなる大統領選 その3

### トランプが大統領になったら

- ・連邦の刑事裁判は停止されるであろう。
- ・すでに刑が確定しているものに対しては本人が恩赦を与えることになるであろう。
- ・州の刑事訴訟については大統領に権限がなく、州知事が決定することになる。
- ・法律問題を含んだ多くのケースが最高裁まで行く。

先例拘束の原則からして、今後出される最高裁の判例がアメリカの統治の原則となる。

6対3で共和党多数の最高裁でも勝手な決定はできない。

15

## 6.どうなる大統領選 その4

### 暴動の可能性は

- ・彼が大統領になれないことが判明した場合、彼は前回 1 月 6 日の時よりはるかに過激な行動に出るであろう。失う物はない。有権者を扇動する。暴動が起きる。そして国が分断する。
- ・彼が大統領になった場合でも、民主党は黙っていない。暴動が起きる。そして国が分断する。

16



## 結論

- ▶ 皆さんで議論しましょう！